

時事偶感（杉浦重剛）

昨は非とし 今は是とす 又何をか 論ぜん

世を挙げて 皆知る 道義の 尊きを

三復吟ずるに 堪えたり 古人の 句

日月を 双び 懸けて 乾坤を 照らす

昨非今は又何論 舉世皆知道義尊
三復堪吟古人句 雙懸日月照乾坤

解説 教育者として時勢を慨嘆し、自らは大志を掲げて我が身を鼓舞しようとする気持ちで詠じた詩。

語釈 ※昨〓昨日。 ※非〓誤り。 ※今〓今日。 ※是〓正しい。 ※何論〓何を論じようか。 論ずるまでもない。 問題にならない。 ※举世〓国民一致して。 ※道義〓人の守るべき道。 ※三復〓何度も繰り返す。 ※古人〓ここでは詩仙・李白をさす。 ※日月〓天皇と皇后。 ここでは、攝政宮裕仁親王（昭和天皇）と久邇宮良子女王（香淳皇后）とをさしたるもの。 ※乾坤〓天地。

通釈 昨日まで非とする立場にいた者が、今日には是とする立場にいる。こんな節操のない態度ではどうしようもない。世の中の人こそぞって、道義の尊さを知っているではないか。繰り返し吟ずべきは、古人の句。李白が詠じた「日月を双び懸けて乾坤を照らす」を吟じなさいと。